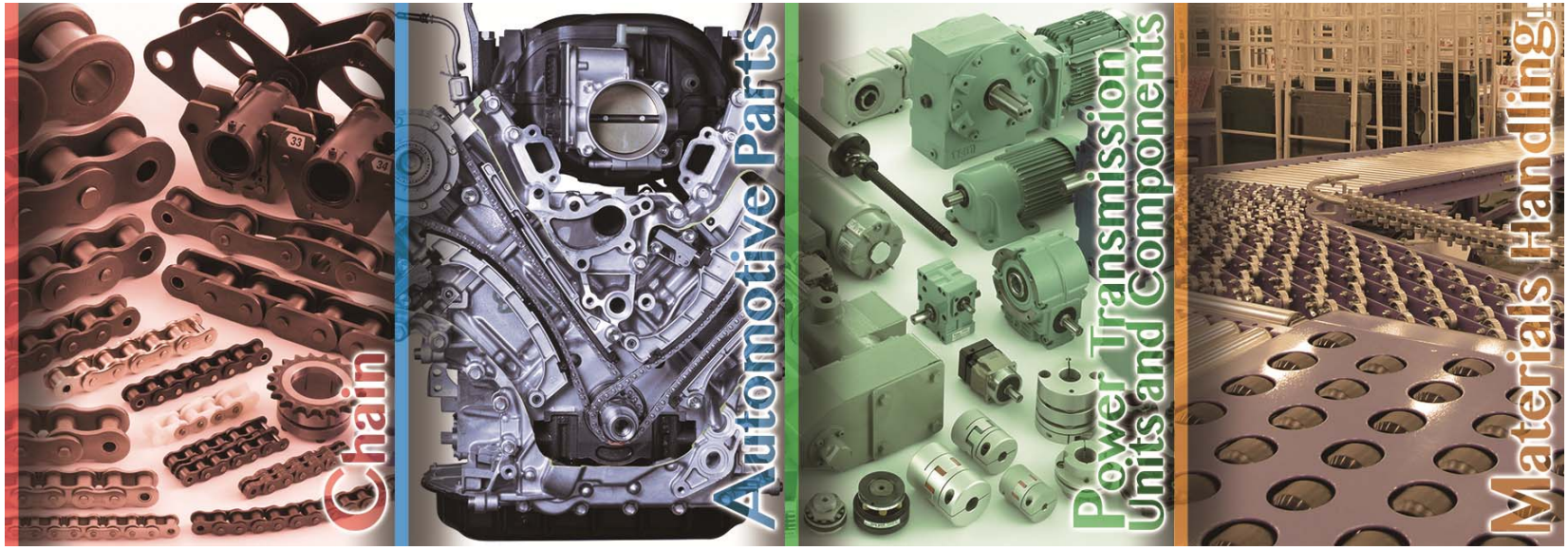
Innovation in Motion
TSUBAKI

株式会社椿本チエイン
2020年3月期 第2四半期決算説明会



2019年11月14日

2020年3月期 第2四半期
連結業績報告

注）本資料で表記する「第２Q」・「上期」は、当該連結会計年度における
4月1日～9月30日、「下期」は、同10月1日～翌3月31日を示します。
（海外子会社の一部は、上期：1月1日～6月30日、下期：7月1日～12月31日となります）

1. 2Q累計レビュー 連結決算ハイライト

■低調な液晶・IT向けや自動車生産台数の減少などにより、前年同期比で減収減益。

（単位：百万円）

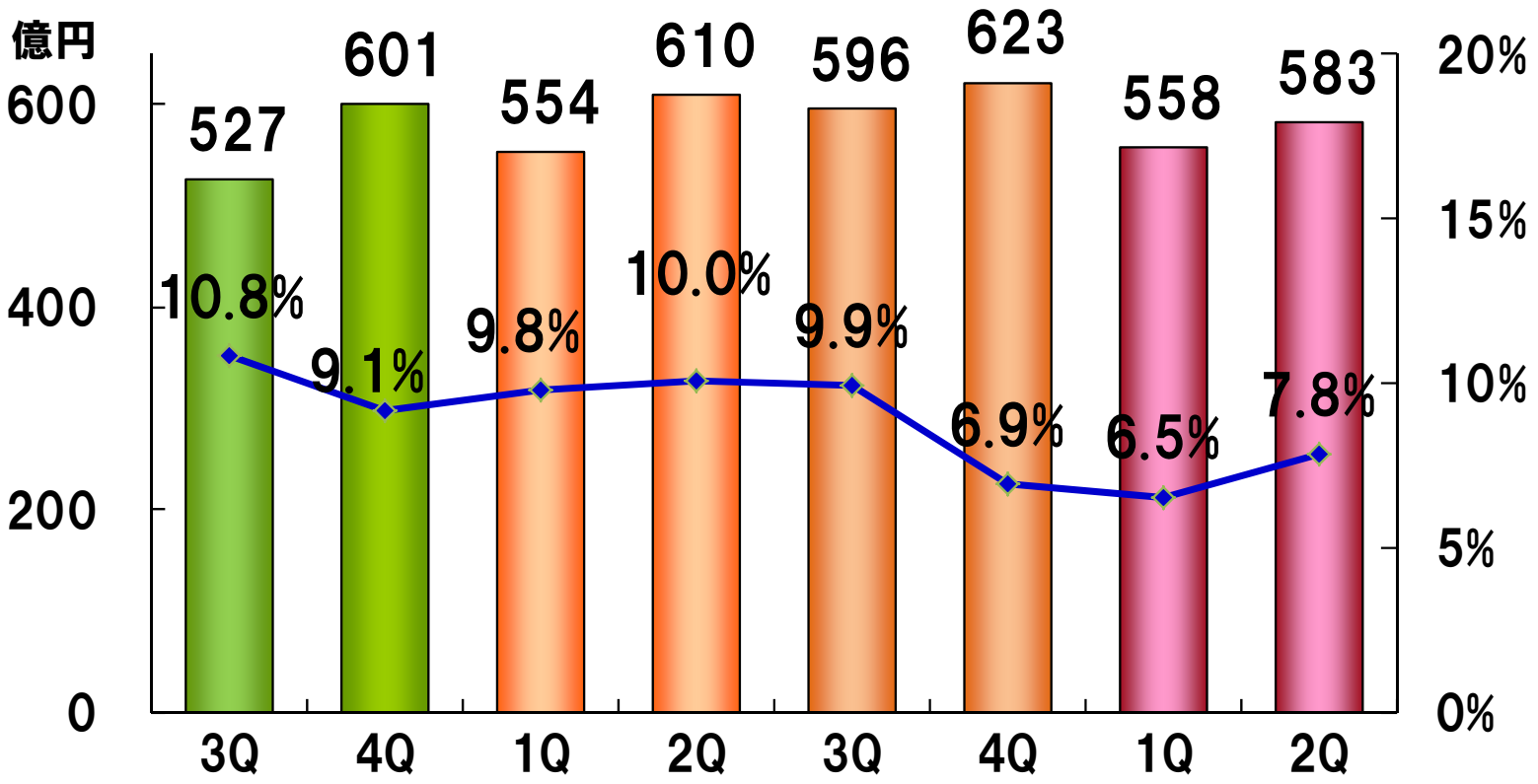
	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	予想比（５月10日公表）	
	第２Q実績	第２Q実績	増減率	予想値	増減率
売　上　高	116,492	114,254	▲1.9%	120,000	▲4.8%
営 業 利 益	11,553	8,231	▲28.8%	9,400	▲12.4%
営業利益率	9.9%	7.2%		7.8%	
経 常 利 益	12,013	8,850	▲26.3%	10,000	▲11.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,578	6,496	▲24.3%	7,100	▲8.5%
1株当たり当期純利益	226.64	171.63	―	―	―
（為替レート　1US$）	110.26円	108.60円	―	―	―
（為替レート　1EURO）	129.79円	121.40円	―	―	―
（為替レート　1元）	17.08円	16.20円	―	―	―

	通期実績	第２Q実績	
自己資本比率	56.8%	58.9%	自己資本/総資産
ネット D/E レシオ	0.04	0.03	（有利子負債-現預金）/自己資本

※Central Conveyor Company , LLCとの企業結合が2018年度末に確定したため、前第２Qの数値については、会計処理の確定による見直し後の数値を用いています。

2. 2Q累計レビュー 四半期毎連結業績の推移

■ 売上高、営業利益率の推移（連結）

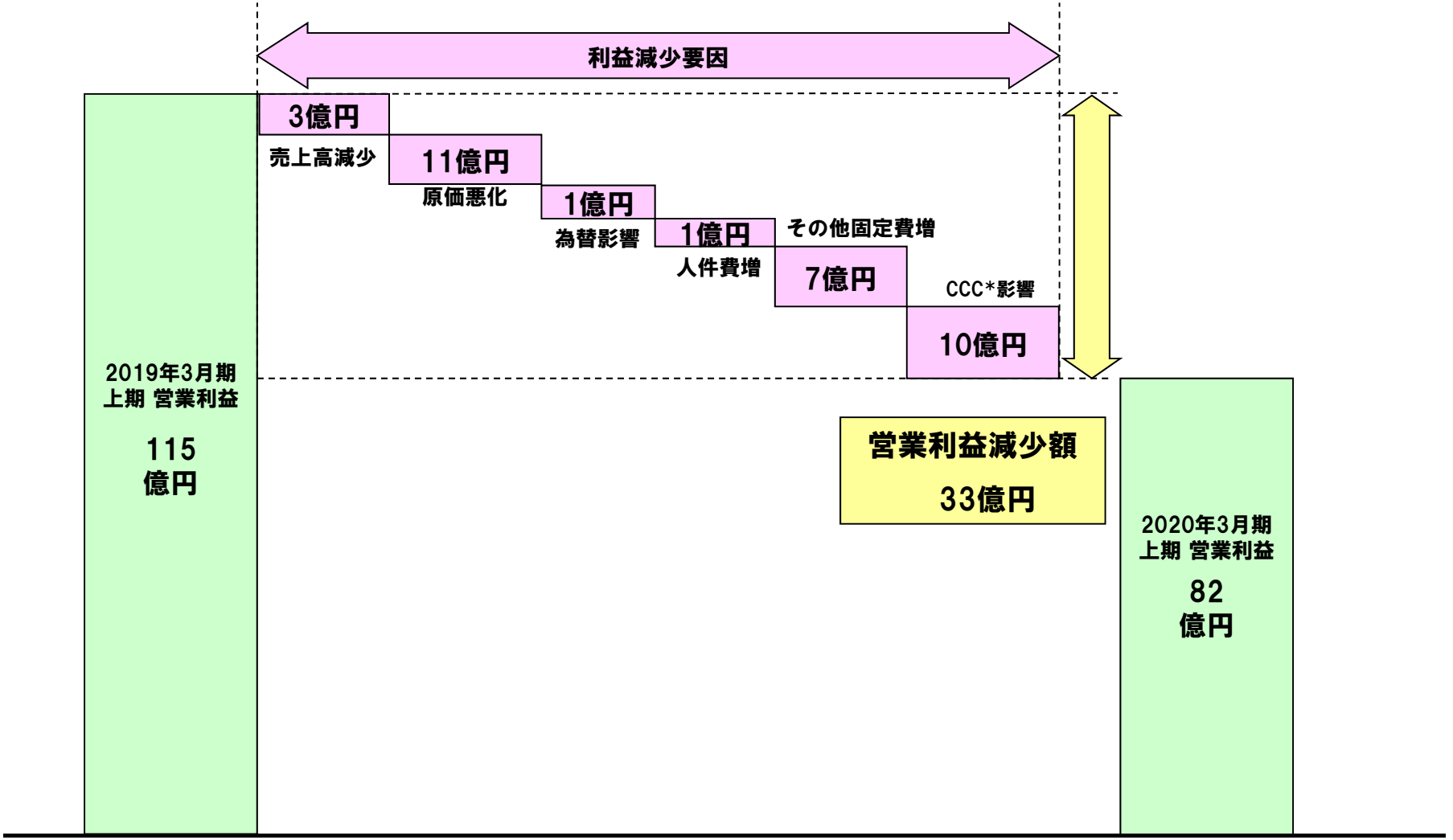


主な為替レート	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期第2Q
US＄	110.86	110.93	108.60
ユーロ	129.66	128.45	121.40

単位：億円 、 ：売上高 、 ：営業利益率

3. 上期レビュー 連結営業利益増減要因分析

2019年3月期上期実績 vs 2020年3月期上期実績



＊CCC：Central Conveyor Company , LLC（2018年6月に連結子会社化）

4. 2Q累計レビュー 事業セグメント別業績

■ マテハンは増収も、チェーン、精機、自動車部品事業が低調。

（単位：百万円）

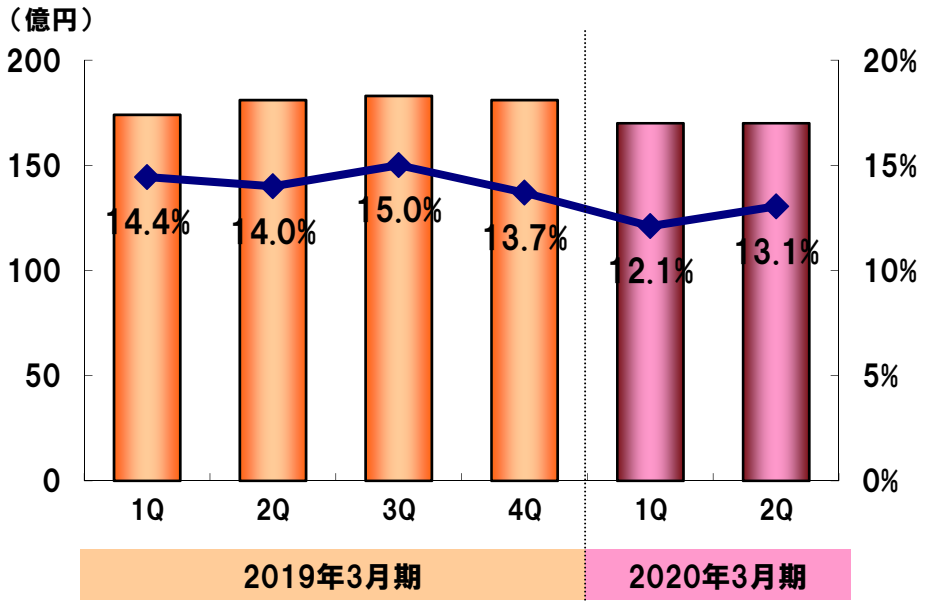
		2019年3月期	2020年3月期	前期比	予想比（5月10日公表）	
		2Q実績	2Q実績	増減率	予想値	増減率
チェーン	売上高※注1	35,565	34,111	▲ 4.1%	36,500	▲ 6.5%
	営業利益	5,057	4,291	▲ 15.2%	4,650	▲ 7.7%
	営業利益率	14.2%	12.6%		12.7%	
精 機	売上高※注1	12,663	12,059	▲ 4.8%	13,600	▲ 11.3%
	営業利益	1,540	1,104	▲ 28.3%	1,510	▲ 26.9%
	営業利益率	12.2%	9.2%		11.1%	
自動車部品	売上高※注1	39,796	36,353	▲ 8.7%	37,500	▲ 3.1%
	営業利益	4,699	2,826	▲ 39.9%	3,150	▲ 10.3%
	営業利益率	11.8%	7.8%		8.4%	
マテハン	売上高※注1	28,332	31,750	12.1%	33,100	▲ 4.1%
	営業利益	781	507	▲ 35.0%	1,010	▲ 49.8%
	営業利益率	2.8%	1.6%		3.1%	
その他※注2	売上高※注1	1,732	1,866	7.8%	1,570	18.9%
	営業利益	▲ 44	▲ 15	―	▲ 50	―
	営業利益率	―	―		―	

※1 ： 売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。
※2 ： 「その他」は、報告セグメントではありません。
※3 ： 企業結合の確定に伴い、マテハン事業の2019年３月期第２Qの営業利益を訴求処理しております。

5. 2Q累計ﾚﾋﾞｭｰ 事業セグメント別業績推移

■ 売上高、営業利益率の推移

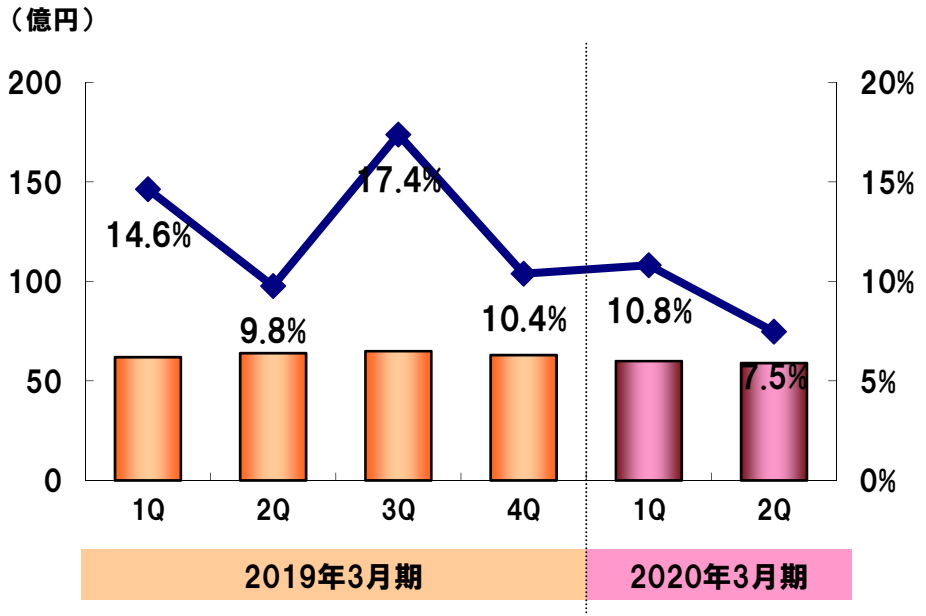
●チェーン事業



<地域別>

- 日本：需要底堅くほぼ横ばい。
- 米州：アメリカの需要が一服し、減収減益。
- 欧州：需要堅調も、為替影響でほぼ横ばい。
- 環インド洋：需要堅調でほぼ横ばい。
- 中国：需要後退で減収も、収益性改善。

●精機事業



<地域別>

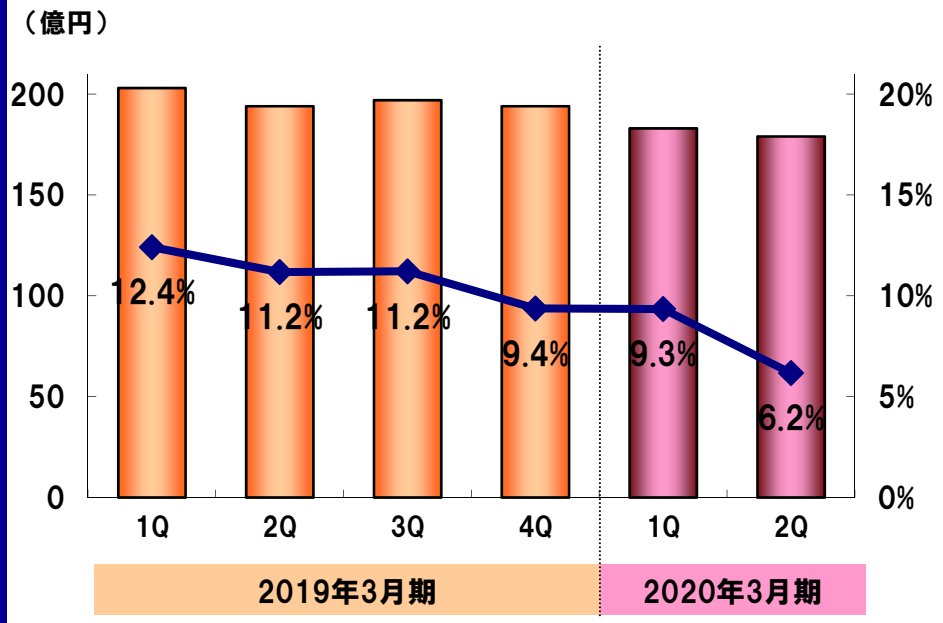
- 日本：液晶向けの減速等により減収減益。
- 米州、欧州：ほぼ横ばい。
- 中国：IT関連の需要低迷により、減収減益。
- 環インド洋：タイの子会社が堅調を維持、ほぼ前年並み。

単位：億円 、 ：売上高 、 ：営業利益率

5. 2Q累計ﾚﾋﾞｭｰ 事業セグメント別業績推移

■ 売上高、営業利益率の推移

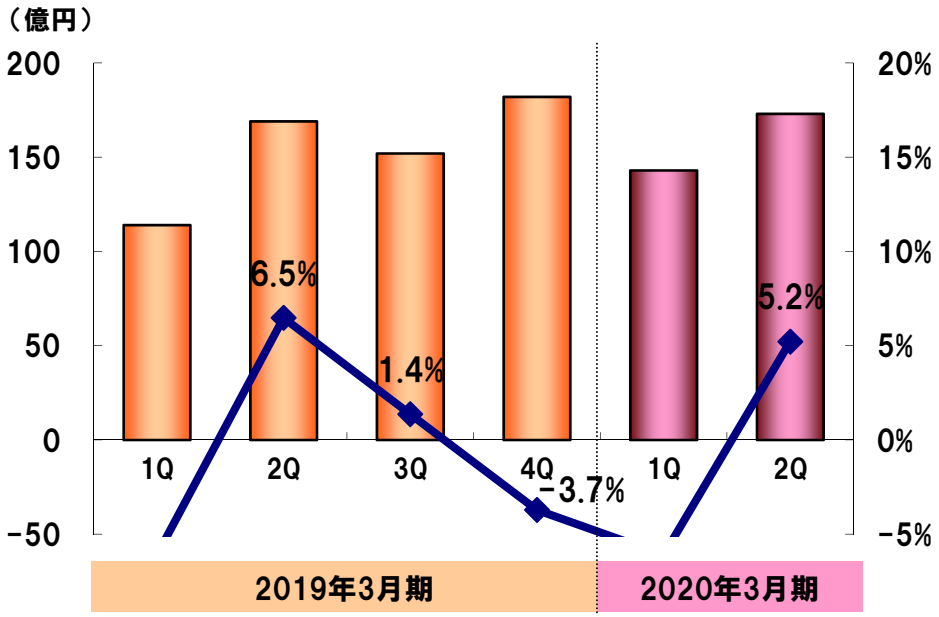
●自動車部品事業



<拠点別>

- 日本：国内向けは横ばいも、海外向けが減少したことにより減収減益。
- 米国：車種MIX悪化により減収減益。
- 中国：中国市況回復せず、減収減益。
- 欧州：売上低調により減収減益。

●マテハン事業



<地域別>

- 日本：流通・新聞・ライフサイエンス向けが好調で増収増益。
- 米国：セントラル・コンベヤ連結子会社化により増収も、追加工事コストの発生等により増収減益。
- 欧州：売上ほぼ横ばいもコスト削減により増益。

単位：億円 、 ：売上高 、 ：営業利益率

6. 2Q累計レビュー 所在地別業績

（単位：百万円）

		2019年3月期 第２Ｑ実績	2020年3月期 第２Ｑ実績	前年同期比 増減率
米　　州	売 上 高※注	32,062	30,784	▲ 4.0%
	営業利益	2,213	323	▲ 85.4%
	営業利益率	6.9%	1.1%	
欧　　州	売 上 高※注	14,072	13,505	▲ 4.0%
	営業利益	205	195	▲ 5.0%
	営業利益率	1.5%	1.4%	
環インド洋	売 上 高※注	8,630	8,907	3.2%
	営業利益	1,445	1,233	▲ 14.7%
	営業利益率	16.7%	13.8%	
中　　国	売 上 高※注	11,701	10,232	▲ 12.6%
	営業利益	458	424	▲ 7.4%
	営業利益率	3.9%	4.1%	
韓国・台湾	売 上 高※注	4,999	4,960	▲ 0.8%
	営業利益	368	314	▲ 14.5%
	営業利益率	7.4%	6.3%	
日　　本	売 上 高※注	62,503	60,968	▲ 2.5%
	営業利益	6,005	4,659	▲ 22.4%
	営業利益率	9.6%	7.6%	

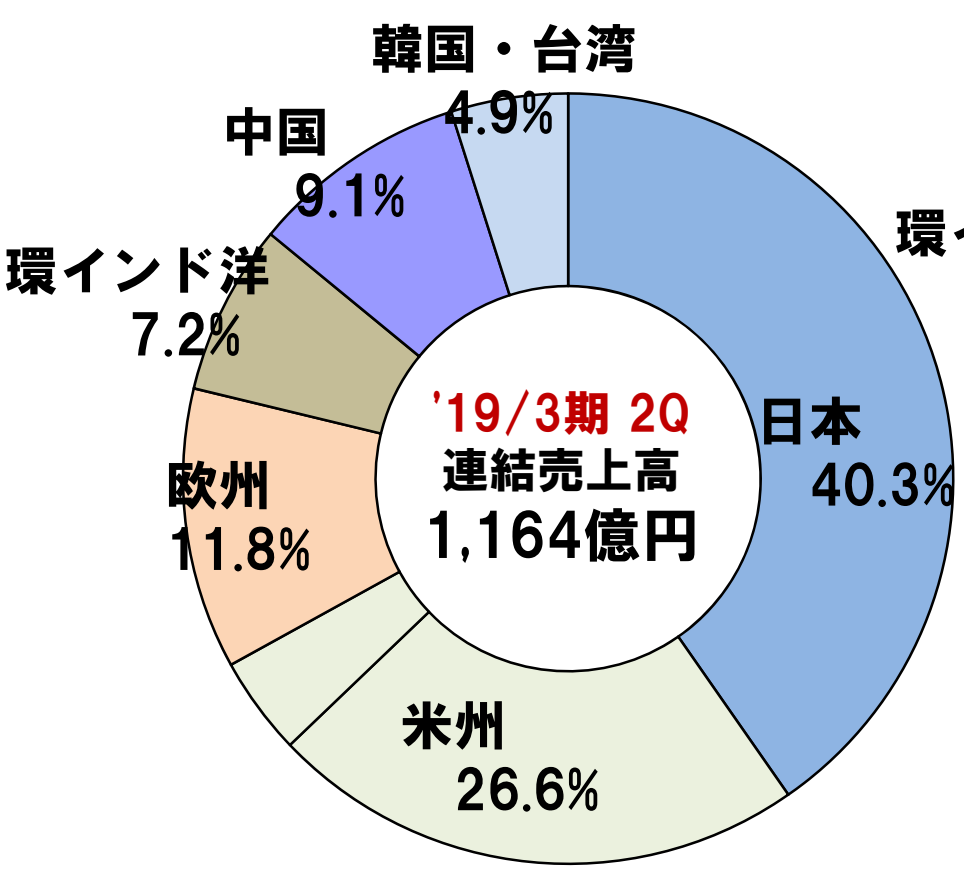
※注 ： 売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

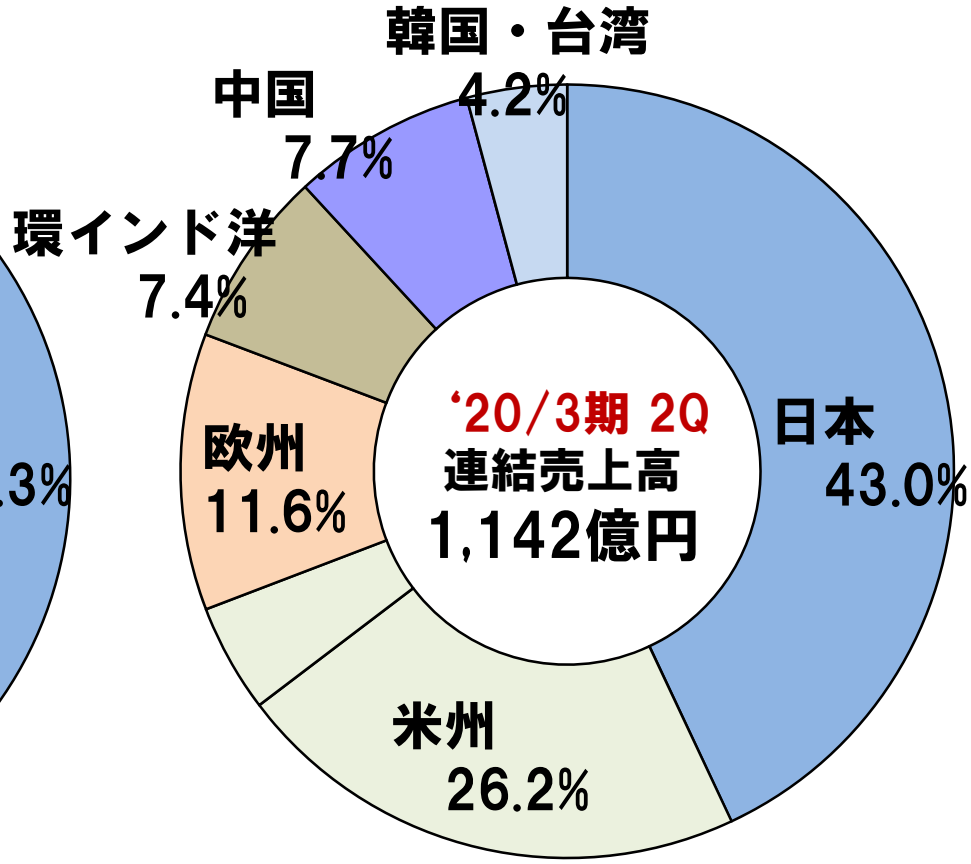
	US$	EURO	Can $	A $	THB	NT$	RMB	WON	MXN
19/3上期	110.26	129.79	84.88	82.07	3.43	3.64	17.08	0.10	5.70
20/3上期	108.60	121.40	81.73	75.23	3.49	3.48	16.20	0.10	5.74

7. 2Q累計レビュー 地域別売上高比率

2019年3月期 第2四半期
海外売上高※比率：59.7%

2020年3月期 第2四半期
海外売上高※比率：57.0%





※売上高は、顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

2020年3月期 通期
連結業績予想

1. 20年3月期 通期連結業績予想

■上期実績、足下の受注状況や為替レートなどを鑑み、売上高・利益とも下方修正。

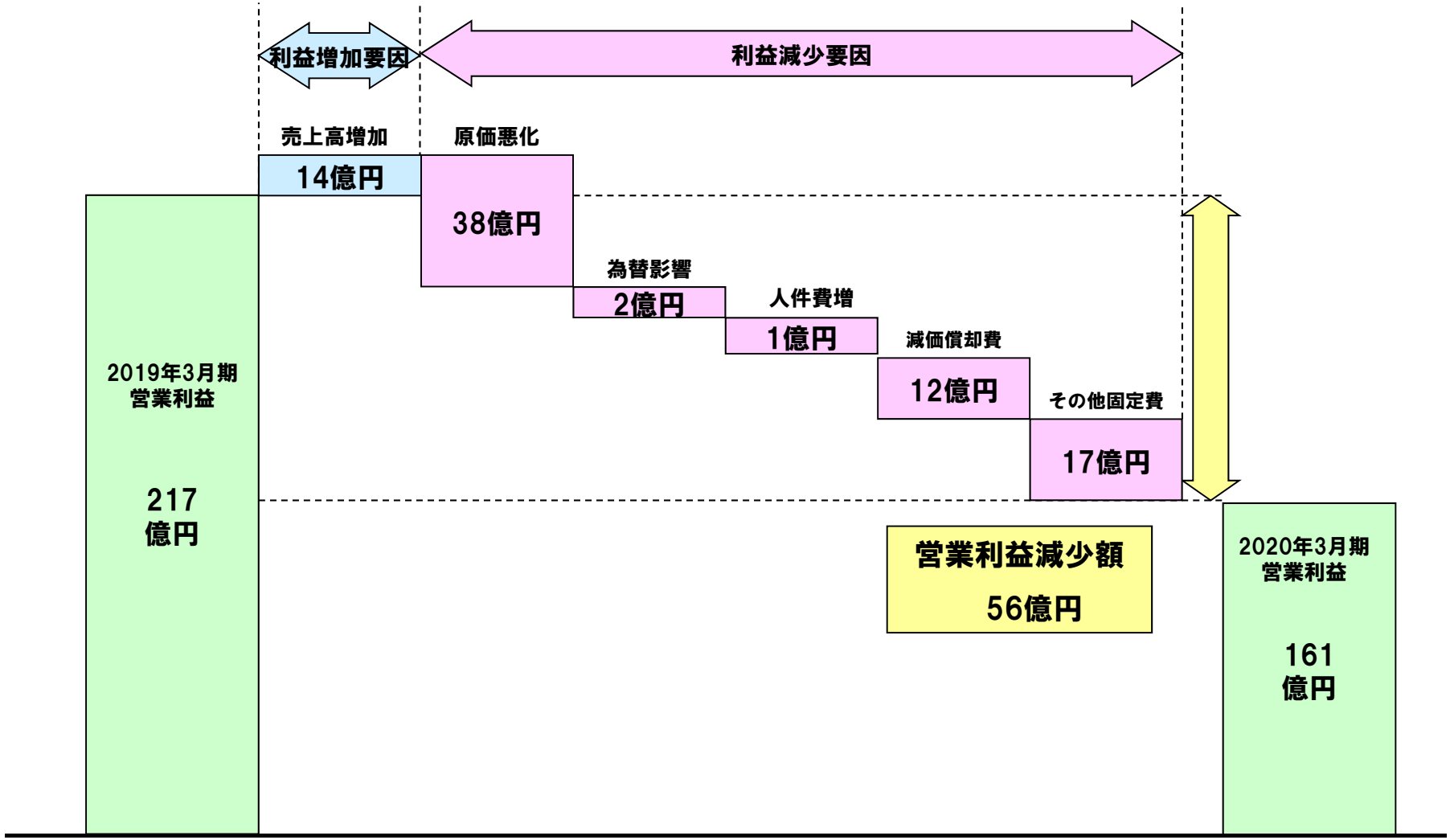
（単位：百万円）

	2019年3月期	2020年3月期			前期比
	通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率
売　上　高	238,515	114,254	120,746	235,000	▲1.5%
営 業 利 益	21,789	8,231	7,869	16,100	▲26.1%
営業利益率	9.1%	7.2%	6.5%	6.9%	
経 常 利 益	21,621	8,850	7,550	16,400	▲24.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	13,779	6,496	5,204	11,700	▲15.1%
1株当たり当期純利益	364.03	171.63	-	309.12円	ー
（為替レート 1US＄）	110.93円	108.60円	107円	ー	ー
（為替レート 1EURO）	128.45円	121.40円	118円	ー	ー
（為替レート 1元）	17.08円	16.20円	15円	ー	ー

※1 ： 2020年３月期の１株当たり当期純利益予想について、11月1日に実施した自己株式の取得による影響は考慮しておりません。

2. 20年3月期 連結営業利益増減要因分析

■ 2019年3月期実績 vs 2020年3月期予想



3. 20年3月期 事業セグメント別業績予想

（単位：百万円）

		2019年3月期	2020年3月期			前期比	5/10
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率	予想値
チェーン	売上高※注1	72,023	34,111	35,589	69,700	▲3.2%	74,400
	営業利益	10,292	4,291	4,329	8,620	▲16.2%	9,940
	営業利益率	14.3%	12.6%	12.2%	12.4%		13.4%
精 機	売上高※注1	25,591	12,059	12,141	24,200	▲5.4%	27,700
	営業利益	3,340	1,104	1,546	2,650	▲20.7%	3,240
	営業利益率	13.1%	9.2%	12.7%	11.0%		11.7%
自動車部品	売上高※注1	78,992	36,353	37,347	73,700	▲6.7%	78,100
	営業利益	8,734	2,826	2,104	4,930	▲43.6%	6,810
	営業利益率	11.1%	7.8%	5.6%	6.7%		8.7%
マテハン	売上高※注1	61,827	31,750	35,750	67,500	9.2%	68,600
	営業利益	402	507	423	930	131.3%	2,400
	営業利益率	0.7%	1.6%	1.2%	1.4%		3.5%
その他※注2	売上高※注1	3,548	1,866	1,634	3,500	▲1.4%	3,600
	営業利益	▲ 43	▲ 15	65	50	—	0
	営業利益率	—	—	4.0%	1.4%		—

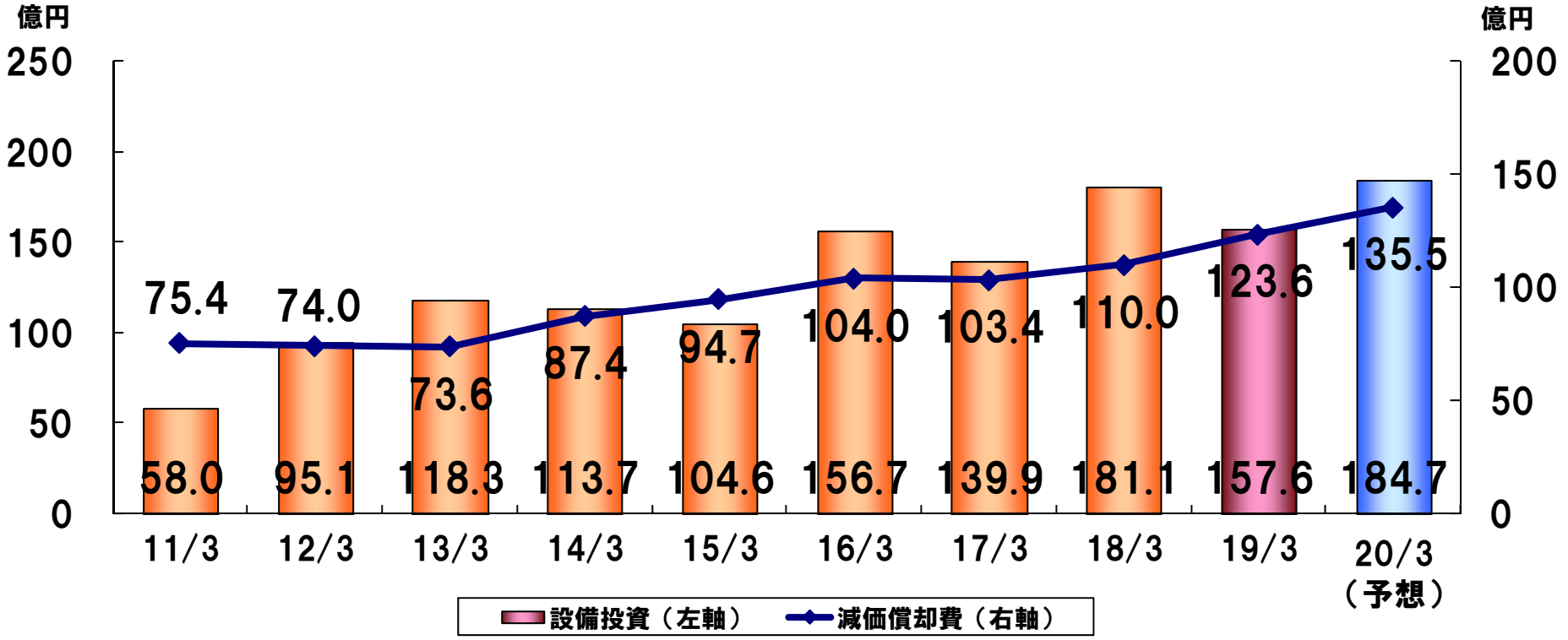
※注1 ： 売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。　※注2 ： 「その他」は、報告セグメントではありません。

4. 20年3月期 設備投資・減価償却費

■ 成長力強化に向けた「資本投入」

① 自動車部品事業のグローバル生産体制強化（埼玉、米国ほか）
② チェーン事業の生産設備関連（京田辺、米国、ドイツほか）

＜ 設備投資と減価償却費の推移 ＞

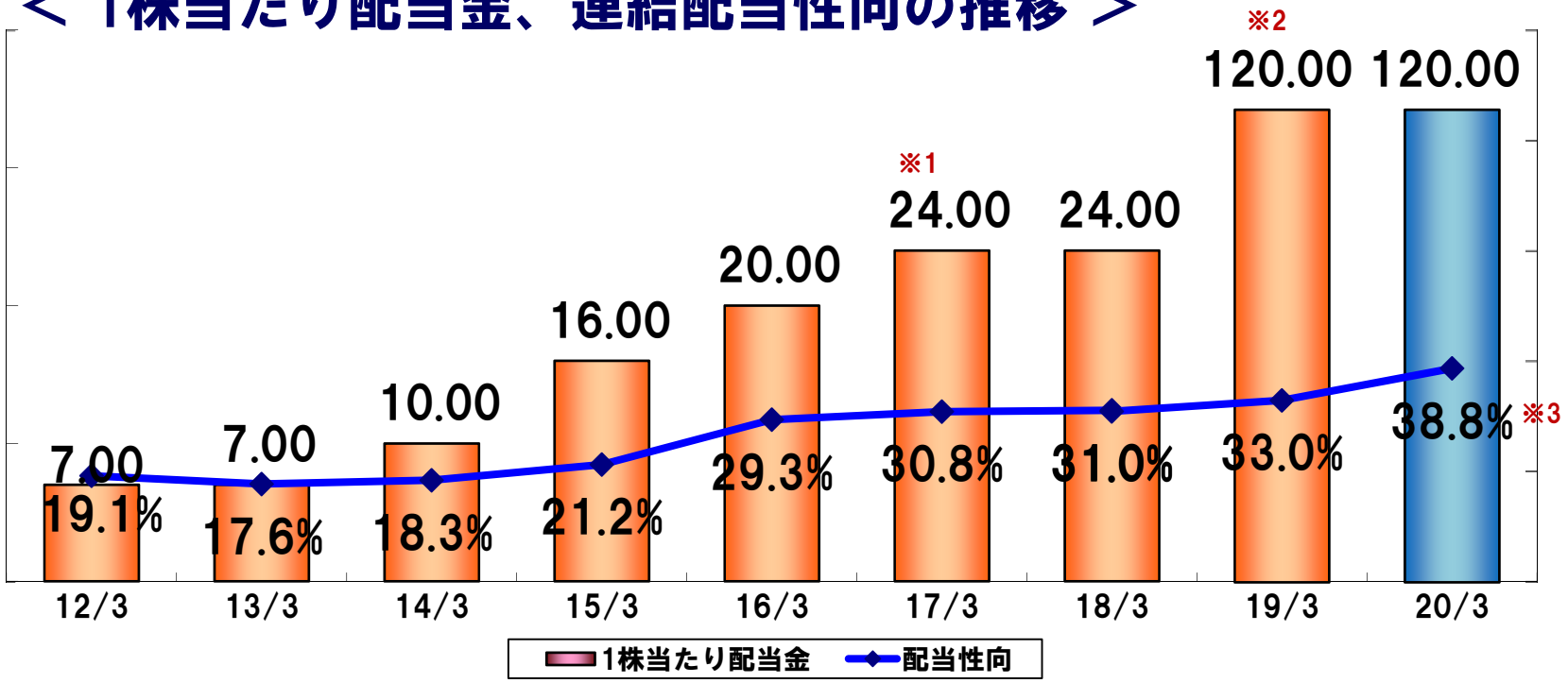


5. 20年3月期 株主還元

配当方針

- 連結業績を反映した配当を基本方針とし、
  連結配当性向30%を基準とした利益配分を目指す。

＜ 1株当たり配当金、連結配当性向の推移 ＞



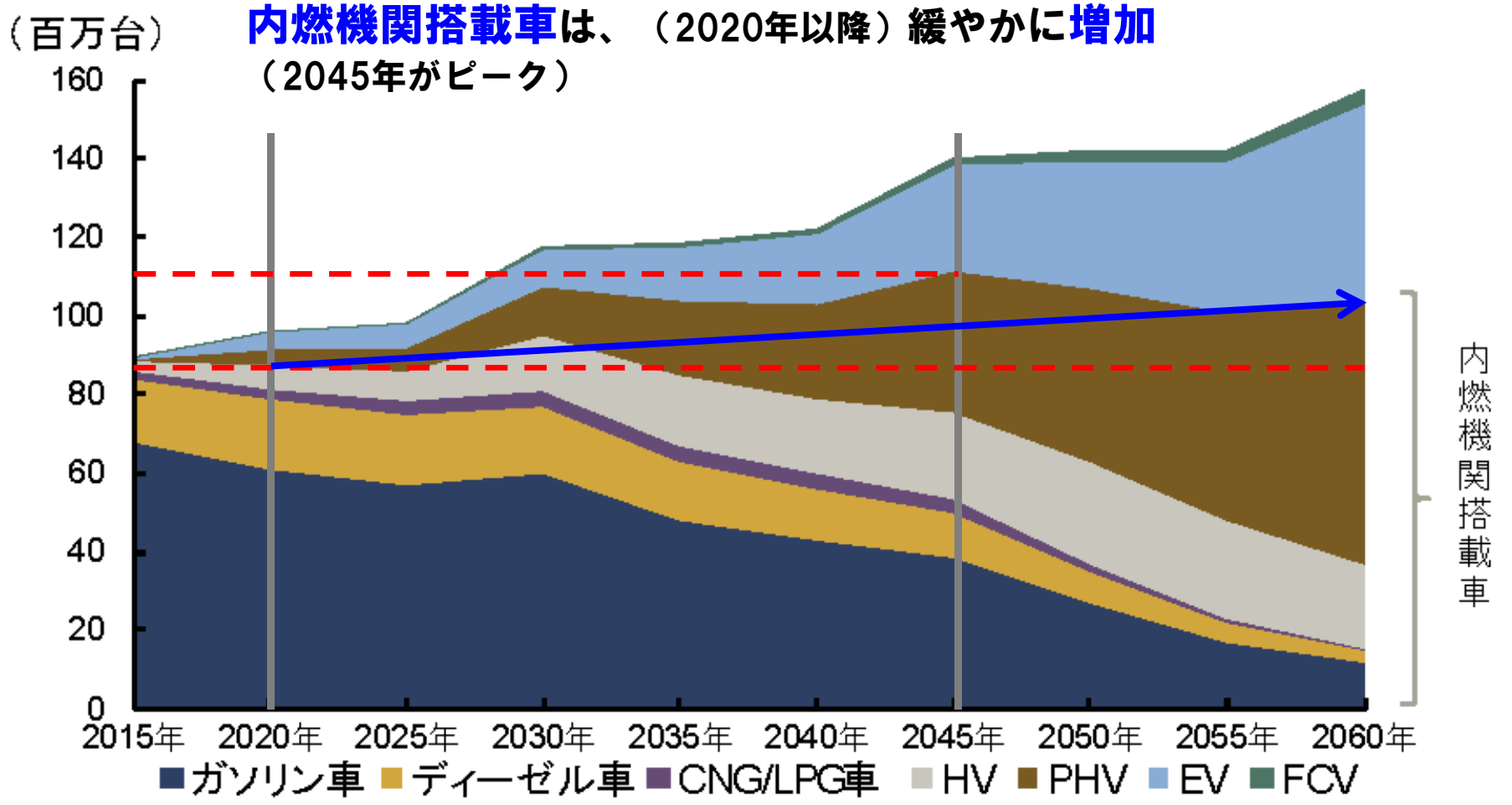
※1：100周年記念配「2円」を含む　※２：株式併合を考慮しておりません。
※3：2020年３月期の配当性向ついて、11月1日に実施した自己株式の取得による影響は考慮しておりません。

持続的成長に向けて
～トピックス～

1. 自動車生産の市場予想

■ 世界車種別販売台数予測

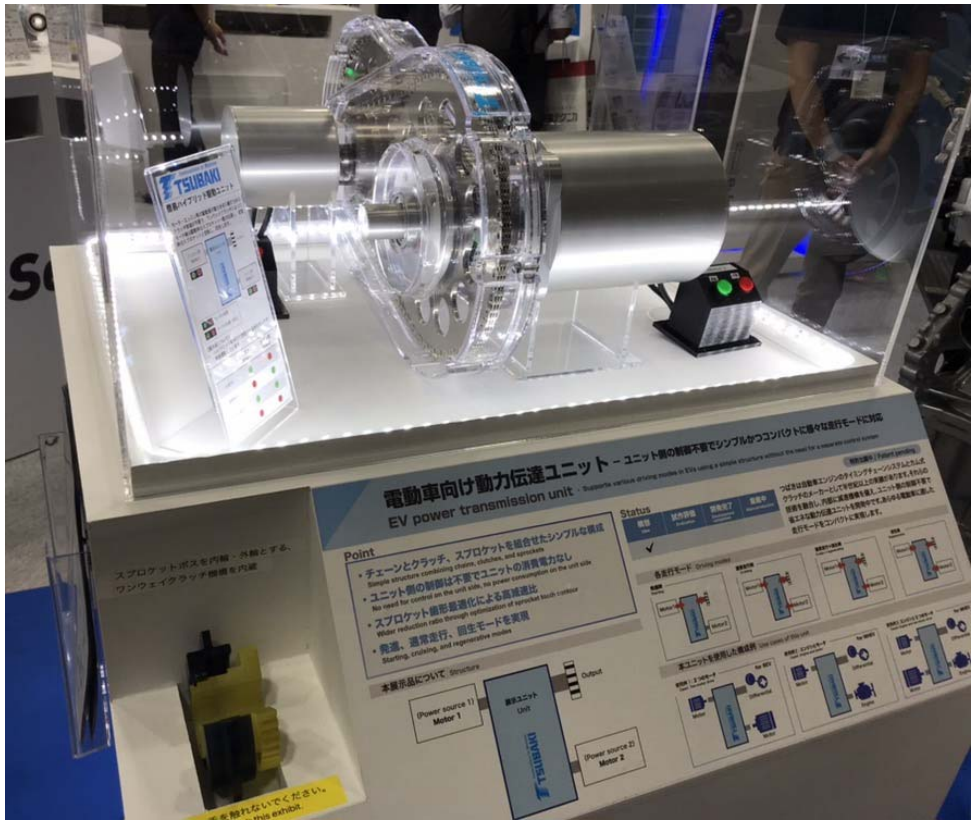
- 電動車（HV、PHVを含む）の比率が上昇する一方、
  内燃機関搭載車は、（2020年以降）緩やかに**増加**
  （2045年がピーク）



（出所）経済産業省「自動車新時代戦略会議（第1回）資料（2018年4月18日）」を基に作成

2. EV対応アプリケーション

<Enedrive® Chain>



「人とくるまのテクノロジー展2019」出展用サンプル
（電動車向け動力伝達ユニット）

2. EV対応アプリケーション

<車載用クラッチ>

半世紀以上の量産実績

車載向けに特化、最適化

- ギヤボックスとモータ付近でクラッチを組合せ
  （トランスミッション、CVT、電動アクスル、インホイールモータ等）
- 逆入力防止、二元駆動等のワンウェイ機能とツーウェイでのオンオフ機能
- 過負荷保護機能との組合せ　…など

3. 自動車部品事業の新工場

<新テンショナ工場（埼玉）>

テンショナ

「高効率・高品質な新しいモノづくり工場」

工場内（設備導入前）

工場内（設備導入後）

- 設備、構内物流の自動化、多品種少量生産に対応する新生産ラインの構築、IoTやAIを活用した生産管理システムや稼働状況の見える化等
- 太陽光発電システム、屋上緑化など、地球環境への配慮。
- 建物下に雨水貯留槽設置。自然災害へ（水害、地震等）の対応強化。

3. 自動車部品事業の新工場

<テネシー新工場>

ガイド・レバー

テンショナ

- タイミングチェーンシステム構成部品の製造工場
  （ガイド＆レバー、テンショナ）
- 旧工場の2倍の生産能力を構築
- 外部倉庫2棟の吸収（統合）による生産性の向上
- マテハンの米国拠点(Conveyor Operations Division)として活用

4. マテハン事業グローバル化の取り組み

<ジップチェーンリフタ®>

Central Conveyor Company

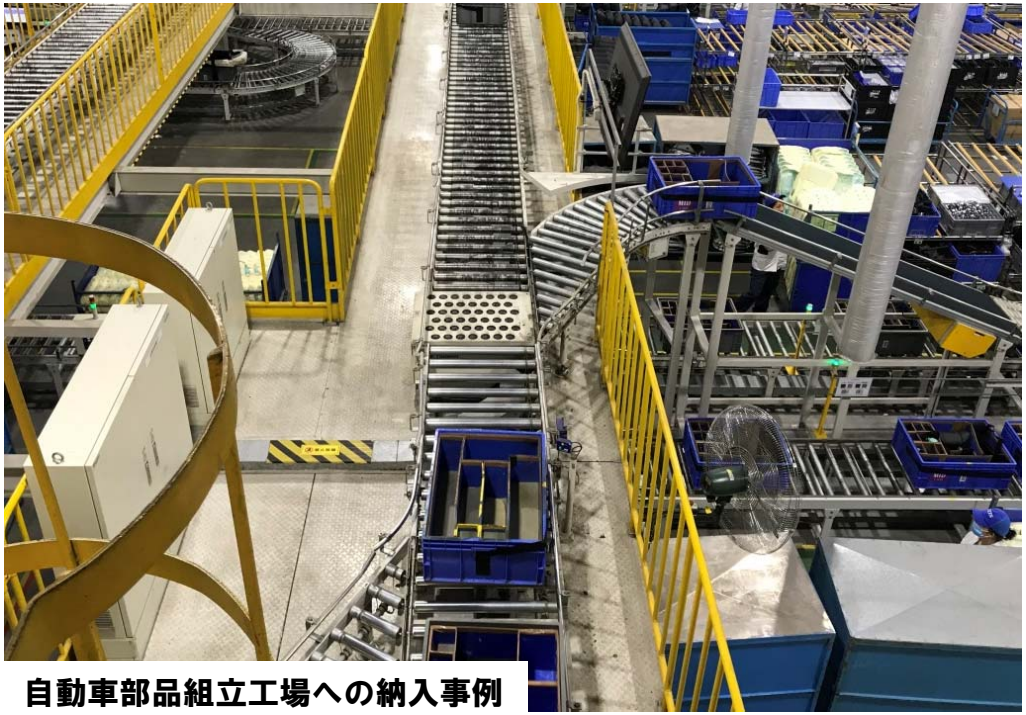
Conveyor Operations Division

「ジップチェーンリフタ」（噛み合いチェーン式 高速昇降ユニット）

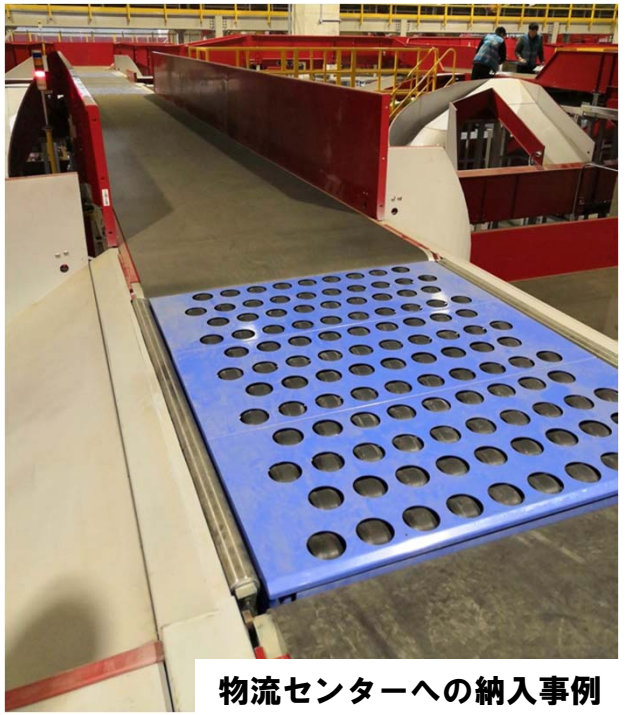
- Conveyor Operations Division（U.S. Tsubaki Holdings, Inc.）、Central Conveyor Company, LLC を通じ、北米でシステム販売
- 2017年以降、100台超の納入実績

4. マテハン事業グローバル化の取り組み

<クイックソート®>



自動車部品組立工場への納入事例



物流センターへの納入事例

「クイックソート」（高速自動仕分け装置）
- 2018年からユニット販売
  中国市場において、300台超の納入実績

4. マテハン事業グローバル化の取り組み

<リニソート®S-C>

「リニソートS-C」

「リニソートS-C∞」

「リニソートS-C」（多段構造 高速自動仕分け装置）
- 省スペース、高効率仕分けが可能
- ソータ（トレイ）をスパイラル状の多段（ループ式）に配置
  ⇒ 投入口当たりの仕分け方面数が増加（S-C∞）

5. 新規ビジネスの拡大

<新型「eLINK®」>

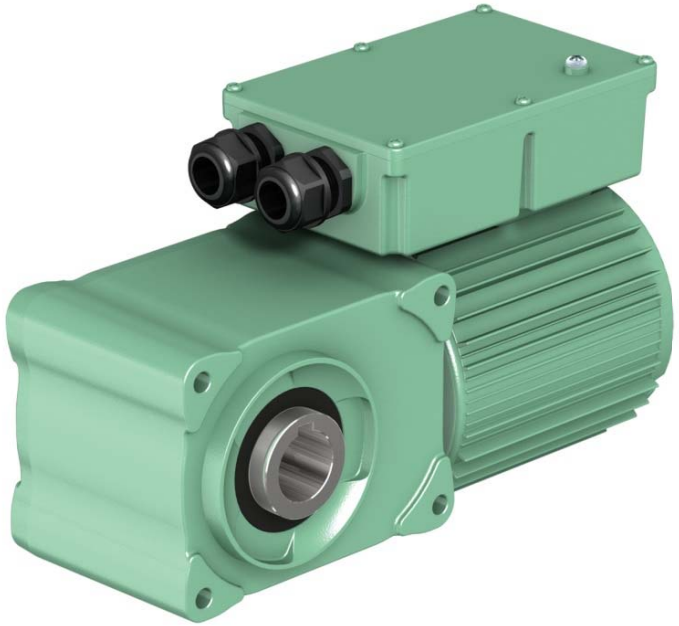
自治体向けPR推進 ⇒ 災害時の非常用電源としての活用

V2X対応 充放電装置（新型「eLINK」）

- V2X：「Vehicle-to-Everything」の略
- 住宅（V2H）、ビル （V2B）、電力網（V2G）などの間で電力の相互供給を行う。

6. IoT対応新商品

<IoT>



つばき小形ギヤモータ IoT対応自己遮断仕様

金属切削粉搬送用チップコンベヤでの使用例

「つばき小形ギヤモータIoT対応自己遮断仕様」（2019年6月1日発売）
- 業界初。コンベヤ等の稼働状況を遠隔で監視
- 「電力・温度・振動」監視による装置の予知保全

⇒設備の稼働状況を「見える化」。
トラブルによる稼働停止の未然防止により、品質、生産性の向上に寄与

本資料に記載している事業計画および業績予想等に関する記述は各資料の作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。